

開業医(みさとファミリークリニック院長)松田正著「オミクロン株、漢方薬が有効」私見卓見 日本経済新聞 2022年9月8日朝刊を読む

1. (1)私は埼玉県三郷市で開業医をしている。  
(2)新型コロナウイルスの患者に対する漢方薬治療の効果は、デルタ株までは限定的だったが、オミクロン株以降は有効率が格段に上がった。  
(3)8月までの1年間、「日経メディカル」で医師向けに漢方薬治療について連載する中で何度か詳細を掲載したが、ここでは概略を伝えたい。
2. (1)デルタ株までは漢方薬治療の効果は限定的な印象だったが、今年1月のオミクロン株以降、有効率が格段に上がった。  
(2)漢方薬の投与開始48時間以内に、約80%の患者が解熱し症状は軽快した。  
(3)使用した漢方薬は、約100年前のスペイン風邪(インフルエンザ)流行時に先達が用いた方法であり、決して新しい使用法ではない。  
(4)薬が存在し使用法も分かっているのに漢方薬の選択肢が広がらないのはとても残念に感じている。
3. (1)西洋薬の抗ウイルス薬は診断が確定してからの使用となり、初期治療の遅れが一番大きな問題だ。  
(2)その点、漢方薬は新型コロナを疑った時点からすぐに治療開始できる利点があり、それが重症化を抑制していると推量している。  
(3)PCR検査の結果を待つことなく、一刻も早く治療を開始することがより重要であると認識している。  
(4)西洋薬では通常、解熱剤、せき止めのみでの対症療法が多いと思うが、それでは重症化やコロナ後遺症を防ぐ効果も限られる。  
(5)発症早期から治療を開始できるメリットはとても大きいと感じている。
4. (1)今回の第7波では0歳児の症例が大幅に増えているのも特徴だ。  
(2)0歳児や小児、妊婦に使用できる抗ウイルス薬はないが、小児の場合、漢方薬治療によって1日で解熱して元気になるケースも多く、低年齢ほど有効と感じる。  
(3)漢方薬は血液透析中の患者や高齢者にも投与でき、禁忌なく全年齢に投与できるのも大きなメリットだ。
5. (1)私だけでなく、漢方薬治療をしている医師の多くが感じていることだが、急性期に漢方薬治療をすると、ほとんどコロナ後遺症を認めない。  
(2)当院にはコロナ後遺症の患者も来るが、ほぼ全例が他院で解熱鎮痛剤のみ処方されていた患者だ。  
(3)重症化予防だけでなく、コロナ後遺症を予防する観点からも急性期の漢方薬治療は重要なアプローチ方法だと考えている。

## <コメント>

1. (1) 日本経済新聞 9 月 8 日朝刊<私見卓見>「オミクロン株、漢方薬が有効」という、開業医、みさとファミリークリニック院長、松田正先生の論考はとても参考になります。  
(2) この文章を是非お読みいただき、参考になると考えたら、「ご自分の責任」で、漢方薬の処方「医師」や「漢方薬局」に「ご相談」なさることをお奨めいたします。
2. (1) この松田先生の文章に、漢方薬の「品番」や「薬品名」の明記がないのは、一つの「見識」です。  
(2) 症状や年齢などにより「漢方薬の処方が異なる」からです。  
(3) どの漢方薬をどのように服用するかは、「医師」や「漢方薬局」にご相談の上、「処方」していただくことをお奨めいたします。
3. (1) ちなみに、「コロナにかかりにくい体」をつくるうえで、「自己免疫力を強化」することが有効です。  
(2) 「自己免疫力を強化」するには、「腸内フローラを整える」ことと、「ストレスをマネジメント」することが有効です。  
(3) これに加えて、「自己免疫力を強化」するには、「針灸（しんきゅう）治療」も極めて有効であることは誰しも認めるところです。
4. (1) 新規感染者数が減少しているとはいえ、毎日、10 万名以上の方が感染していますので、「明日は我が身」、いつ何時、自分や身近な皆様が感染するかわかりません。  
(2) 「自己責任」「自助努力」「自分の身は自分で守る」「身近な人の身は、みんなで守る」しかありません。  
(3) まずは、コロナにかかりにくい体をつくるために、「ワクチン接種」を行い、「自己免疫力を強化」する。基礎疾患や持病を徹底治療する。
5. (1) コロナに感染したと思われたら、PCR 検査を受け、  
(2) 陽性であれば、「絶対安静」を心がけ、「徹底的に治療」。  
(3) この選択肢に、「漢方薬」も含ませることをお奨めいたします。
6. (1) 9 月 8 日の新規感染者数は、

①全国で、	129793 名(12 万名)
②東京都、	13568 名
③栃木県、	1553 名
④群馬県、	1636 名
⑤茨城県、	2624 名
全国では、	12 万名台でした。

  
(2) ①日本は、統計調査上は、世界一の新規感染者数の国ですが、少しずつ、減少傾向にあります。  
②もう一歩で 10 万名を割りこみ、1 桁万名になります。

- ③それでも、1 万名以下になるのは、まだまだ先と思われしますので、「自己責任」「自助努力」で、万全の感染対策を講じた上で、粛々と業務の遂行をお願いいたします。
- \* もう一歩です。

2022 年 9 月 8 日(木)